

令和5年10月26日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

- 1 開会時間 9時30分
- 2 閉会時間 11時35分
- 3 教育長名 森 英夫
- 4 署名委員 岡野 敏彦
- 5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	岡野 敏彦
○	教育委員	藤原 直彦
○	教育委員	杉本 かおり
○	教育委員	古正 栄司

- 6 出席者氏名
- | | |
|--------------|-------|
| 教育部長 | 椎野 文彦 |
| 教育総務課長 | 田嶋 卓司 |
| 教育指導担当課長 | 倉重 成歩 |
| 教育総務課課長代理 | 高谷 松慶 |
| 生涯学習課長 | 山下 昌志 |
| 教育総務課指導班長 | 安藤 通晃 |
| 教育総務課教育総務班長 | 高橋 梓 |
| 教育総務課教育総務班主査 | 添田 理代 |
- 7 傍聴者 1名
- 8 調製者 教育総務課教育総務班主査 添田 理代

1 開会宣言

(教育長) 令和5年度10月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

岡野委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 10月政策会議結果報告を資料に基づいて行う。

(各課長・指導主事) 各課の事務報告・事業予定・研修内容について資料に基づいて説明する。

- (藤原委員) ふたみ記念館の展示については、作品を提出してもらうときに、氏名が無いと誰の作品か分からないので、ふたみ記念館で展示する際は、氏名を出してよいか、氏名を出したくない方にはイニシャルで出してもいいのかを確認するのが良いのではないかと思います。また、制服検討委員会について、教育委員としての関わりを教えてください。
- (教育指導担当課長) 制服検討委員会は、各学校の教員、PTA、学校運営協議会の方が委員となり、6月に実施したアンケート結果を元にどういう形の制服にするのか方向性を決めていきます。新しい制服を作る場合、プロポーザルの実施をし、前年の6月頃には数量を出す必要があるため、ロングスパンで考えていく必要があります。教育委員さんには検討委員会での方向性が決まったら、報告することになります。
- (藤原委員) ガラスのうさぎ平和と友情のつどいについて、今年度はやり方を変えたこと、来年度は前年度のやり方に戻すこと、それぞれの意図を教えてください。
- (教育総務課長) 令和元年度までは小学校3校が持ち回りで合唱をしていました。この合唱を全校でやってみようという意見が持ち上がり、学校等の意見を聞いた中で、令和5年度にやってみようということになりました。しかし、夏休み中の実施ということもあり、子ども達が全員集まるというのは難しいという結論になり、校長会等で話し合った結果、元に戻すことになりました。
- (教育長) 合唱を各校で持ち回りすることのデメリットとして、その年に当たらない子どもは、ガラスのうさぎに触れずに卒業してしまいます。二宮町の教育として、全員にガラスのうさぎを周知する必要があるため、6年生全員が経験する機会を作ろうという趣旨で全校の合唱としました。しかし、開催日が8月5日の夏休みで、様々な理由で参加できない児童がいて、全体の約40%が欠席でその子たちは触れないまま卒業することになり、合唱の持ち回りと同じに結果になってしまいます。コロナ禍では授業でやっていたため、全員が学ぶことができました。全員に同じ機会を与えるために、授業での感想などの成果物を当日出すことが良いだろうという結論になりました。

- （藤原委員） 10月27日の交流会の切り絵は、非常に良い試みだと思います。生徒に中学校のステンドグラスに繋がっていることは話しているのでしょうか。
- （指導班長） 山西小学校には伝えるように話していますが、伝えているかどうかは未確認です。
- （藤原委員） 今年度作成した作品を見本として、各校に渡すという使い方があるのではないかと思いますので、検討をお願いします。
- （指導班長） 中学校ではステンドグラスや切り絵だけではなく、素晴らしい作品が廊下に展示されています。作品の交流も、小中一貫教育の一つの形だと思いますので、検討してみたいと思います。
- （藤原委員） 6年生が教師の役をやることはすごいことだと思います。会社の人事をしていると、自己肯定感がないと感じています。言われたことはきちんとできるのですが、好きにやっていると、レジリエンスが無いと言われるように、萎縮してしまう、強靱性がないように見えます。自己肯定感の持ちようには、1つ目は自分の役割を果たせるのか、チームの中でチームの一員として動けるのか、そういったことを感じて自己肯定感があると、2つ目は自分の意見を承認してもらい、自分の意見が相手に影響を与えて多様な意見にまともっていく、の2つがあると思っています。ただ、全国学力・学習状況調査などで測るのは難しいと感じています。役割を与えられること、自分の意見を認められること、両方に配慮したカリキュラムになっていくと良いと思います。
- （指導班長） 吉新先生の学びでは、ここまでは求めていませんが、6年生の学び合いが成熟してきて、4月からもう1個チャレンジしてみよう、という取り組みの中で始まっています。最初は中々上手くいかなかったのですが、だんだん進むようになってきたのは、クラスの誰からも自分の意見が承認されるという学びの土台があるからこそ、進めることができていると思います。自己肯定感を高めていくために学年全体でベースを揃えていくことは大事です。その上に新たな学びが上乘せされていきます。
- （岡野委員） 子どもたちの交流について、小学校同士の交流、小学校と中学校の交流、色々な距離の交流を熱心に取り組んでいただき、自分が教える立場になってやってみる、5年生が6年生の様子をしてみる、少し先の世界を見せていくことは小中一貫教育の一番の肝という感じを受けました。指導班長が先ほど熱量高く語っていただいたその熱量は多分そのまま子どもたちも伝わっていると感じました。カッターの話にしても、入りはカッターの使い方なのかもしれませんが、少し先を見るとステンドグラスに繋がっていくし、見える距離を少しずつ伸ばしていくことは必要かと思います。小中の中だけではなく、もっと先にこんな世界に繋がっていくところを見せることで、今やっていることがどう繋がっているのかが見えてくると、今これをやっておく意味があるんだな、今のうちにこれやっておこうと切り替わってくると良いと感じます。生活の中は数学で語られるもので溢れていて、数学だけではなく、社会や理科も全て繋がっていることを分からないことが、全国学力・学習状況調査の中の『数学の授業で学習したこ

とは、将来、社会に出たときに役に立つと思う』の設問の肯定回答率が低さに繋がっていると感じます。

ガラスのうさぎについて、単年度単年度でその瞬間を子どもたちが体験するという平和教育の部分もあると思いますが、どう繋いでいけるかがもう1つの課題として、あると感じています。毎年入れ替わりで子どもたちがその地点を通過していくよりも、子どもたち同士で下級生に繋げていけるような仕組みができるともっと良いと感じます。例えば、同じ映画を見ても、中学生と小学生が書く感想文では、感じる部分の違いはあると思うので、そういうギャップを利用して、子どもたちに上級生がどう見たかを、順番に伝えていくような仕組みができると、自動的に子どもたちの中で繋いでいける仕組みができるのではないかと感じました。

- （古正委員） 教員の異校種体験は、とても良い機会だと思います。小学校の先生が中学校の様子を、中学校の先生が小学校の様子を知ることは、色々なものが腑に落ちるタイミングになりますので、ぜひ推し進めていただきたいと思います。ただ、先生が学校を1日空けて、他校に行くことは難しい部分もあると思いますので、配慮をお願いします。
- （指導班長） 昨年度は必ず実施する事業としていましたが、1日学校を空けることの大変さを踏まえて、今年度は希望制に変更しました。にのみや学園という枠組みができたこと、また管理職の後押しもあり、先生自ら行きたいと希望する機会が増えました。教育委員会としては、今年度、後補充の予算を計上しました。先生が不在となる際、代替りの先生が教室に入って指導・支援できる仕組みを整えました。現場の先生の意見を踏まえて、次年度以降も継続していきたいと考えています。
- （藤原委員） 希望制というのは、1名必須だが、やりたい人が手を挙げるという意味でしょうか。
- （指導班長） 1名必須ではなく、希望した教員のみが行くというシステムにしています。
- （藤原委員） それだと、一歩後退のように感じ、町として大事だけれど、0人でもいいということを知っていることになると思います。必須であるけれど、指名ではなく、希望制であれば意味があると思います。にのみや学園を進める上で、大変なのは分かるけど、大変であってもやる必要があるのではないかと思います。
- （古正委員） 希望制でいいと思います。今まで強制的に行かされて何が困っていたのかを聞き、教育委員会が課題を解決するために後補充をつけたことは、素晴らしい取り組みで、行きやすさが高まると思います。現場の声を聞いていただき、そんなに大勢手を挙げられたら困るくらい希望者が増えることを期待しています。
- （指導班長） 二宮中学校の総括教諭が自ら行きたいと希望しました。学校の中核を担う総括教諭が自ら行きたいと申し出たことは、学校の雰囲気を変えていく、大きな一歩だと感じています。学校内で異校種体験に行きたくなるような雰囲気づくりを管理職中心に進めることも大事になると思います。
- （教育長） 1名必ず出すことも大事ですが、逆に1名出せばいいのかということになっ

てしまう恐れもあります。とりあえず、今の形で進めていき、先生が行きたい学校へ受け入れるような仕組みも必要と考えています。

- （岡野委員） 中地区退職校長会の教育問題研究会はどのような内容だったのでしょうか。
- （教育長） 中地区退職校長会は、校長先生方のOBで構成され、学校の現在抱えている課題等を洗い出し、退職校長先生方で何ができるかを、現職の校長先生方にサポートやアドバイスをする機会になります。今回は伊勢原市の中学校と平塚市の小学校の校長先生の代表者が抱える現状を報告し、それに対して研究会の中でアドバイスをいただいています。

4 付議事項

（1）議案第13号 令和6年度二宮町公立学校教職員人事異動方針について

（教育総務課長）令和6年度二宮町公立学校教職員人事異動方針について資料に基づいて説明

（教育長）委員に議案第13号について諮る。

委員全員賛成により、議案第13号は承認される。

（2）議案第14号 二宮町教育委員会表彰規程の一部を改正する規程について

（教育総務課長）二宮町教育委員会表彰規程の一部を改正する規程について資料に基づいて説明

（教育長）委員に議案第14号について諮る。

委員全員賛成により、議案第14号は承認される。

（3）議案第15号 体育施設の設置、管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について

（生涯学習課長）体育施設の設置、管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について資料に基づいて説明

（教育長）委員に議案第15号について諮る。

委員全員賛成により、議案第15号は承認される。

5 報告・協議事項

(1) 二宮町教育委員会表彰要綱の一部を改正する要綱について

(教育総務課長) 二宮町教育委員会表彰要綱の一部を改正する要綱について資料に基づいて説明。

(2) 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

(教育総務課長代理) 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について資料に基づいて説明。

- (藤原委員) 各学校の対策が大事であることはその通りだと思います。質問紙調査では、小学校と中学校で急激に下がるものと、なだらかに下がるものがギャップとしてあります。例えば、質問番号7『将来の夢や目標を持っている』は、約15%落ちていています。落ちる角度を少し弱める対策が大事になり、小学校と中学校で急激に落ちているのであれば、中1の早い段階で中学校として何かするという事だと思います。英語、数学、国語も中学で手を打った方がいいのは、中学と小学校のギャップが大きいからだという分析いただいた上で、対策を練っていただくということが重要だと思います。
- (教育長) この結果を真摯に受けとめて、どこに力を入れるべきかを考えて、本当に学校が楽しくなくなってしまうのは、どういう理由なのかを考えていかなければいけないと思います。友達同士の活動や部活動、子どもたちは夢や希望を持っているにもかかわらず、楽しくない、ということは注視していかなければいけません。
- (古正委員) 自分も学校現場にいた時に、この結果を見て、学校の教職員の1人としてどう生かしていこうかと考えたことがありますが、実際には日々忙殺されてしまい、正直なところ、それどころではなくなり、優先順位が多少低くなってしまいます。危機感はあるけれども、考える余裕がありません。一方で、優先しなければいけない課題が、目の前に山積されてしまっていると、しっかりと分析されているのに、その取り組みが遅々として進まない状況が生まれてしまいます。そこで、指導の事例や指導資料を提示されると、やってみようという教員が少し増えていくのではないかと思います。大きな市だと、教育研究所のようなところでやっていると思いますが、二宮町のような規模の小さい自治体では、職員数も少ないため難しい問題ですので、カリキュラムワーキンググループなどで課題の一つとしてもいいと思います。生活習慣や学習環境等に関する調査については、自己肯定感にあたる質問番号4『自分には、よいところがあると思う。』は、全員が自分には良いところがあるよ、と言えるようにすることで、今後の生き方にも繋がっていくと思います。
- (教育長) 二宮町は学校同士の横の連携が無かった中で、ワーキンググループという仕組みを作り、教科ごとに小中学校の先生方が自分たちのアイディアを持って進めるこ

とができるような仕組みになったように、このことも同じように考えていくことができれば良いと思っています。自己肯定感については、二宮西中学校の文化祭を見たときに、子どもたちの表情が今までと違って見えるように見えました。小学校から培った、自分の思いを表現する、自分が発信する、相手のことを受けとめることが根づいてきていて、ステージのパフォーマンスやフロアの子どもたちの様子を見てみると、非常に底上げが出来つつあると感じました。学力学習状況調査の結果が上がってきているのも、にのみや学園として小中一貫教育を進めてきた成果が着実に現れていると実感しました。

- （岡野委員） 自分で考えて自分の意見を持つことは、大事なことです。例えば、去年1年間、世界のどこでどんな電気自動車が売れたか調査しなさい、という課題の場合、調査結果を調べて、一覧表にまとめるのは上手なのですが、何故そういう結果になったのかができないということが実際の社会では起きています。データや町の様子を見て、自分なりに課題を見つけていく力は、実際の社会で重要な課題として、浮き彫りになっています。現実的にはそういう調査は、外国の大学のインターン生などに仕事が当てられます。日本の子どもたちは、そういう意味で仕事が減っていくことをその一面からも読み取れると思うので、こうすべきだろう、と自分の意見を持つことは、小中学校に限った話ではなく、実践の中でも浮き彫りになっている話なので、そういうところに繋がっていることを共有しながら、取り組んでいった方が良いと感じています。もう1点が、自己肯定感も連動していると思っています。何故こうなったのか原因が分かった後に、自分だったらこうすべきだ、と出すときに自分の言葉に自信が持てない、何か言われたらどうしよう、自分の答えが間違っているんじゃないか、そんなふうを感じている側面も背中合わせであるので、全て紐付けで繋がっていると感じています。1個1個の項目を注視して取り組むのもいいのですが、お互いに繋がって関連している項目だというのも意識して、取り組んでいけたら良いと感じています。1個1個は小さな問題でも、解けた喜び、先ほどお話しいただいたカッターの使い方がちょっと上手になり、綺麗に切れて、素敵な作品ができ上がったなど、小さなことでもいいので、ステップを踏んで、充実感や達成感などを味わっていったら良いと感じます。

- （教育長） 『主体的対話的で深い学び』の深い学びが、子どもたちに必要なこととして、進めている二宮の教育方針としては、ベストだと自負しています。また、子どもたちの自己肯定感を持って進めていく教育政策が望まれるところだと思っています。

（3）共同学校事務室設置について

（教育総務班長）共同学校事務室設置について資料に基づいて説明。

- （教育長） 共同学校事務室ができることによって、例えば、小規模校の学校事務員さんは共同学校事務室の1人でいいのではないかと、ということにはならないのでしょうか

か。逆に、減らされてしまうことはないのか、そういう心配があります。

- （教育総務班長）今のところそういった話はありません。また、すでに設置をしている近隣の市町でもそういった動きはありません。
- （教育長）各学校には事務職員が必ず1人いて、それ以外に1人配置できる担保を取るための事務室の設置ということですね。
- （教育総務班長）5校に1名追加されるので、今の状況だとそうなります。

（4）その他

－ 次回教育委員会予定 －

（教育総務班長）次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

11時35分 閉会